

第5回定山溪観光魅力アップ構想検討会議

議事要旨

■開催概要

日 時：平成26年8月5日（火）13：00～15：00

場 所：定山溪まちづくりセンター集会室

参加者：金川委員、佐藤委員、布村委員、橋場委員、長谷川委員、濱上委員、古川（善）委員、
松田委員、山田委員

（欠席：濱野委員、古川（雅）委員）

オブザーバー 陰元連合町内会副会長

事務局 札幌市 高松、札幌、西

（株）KITABA 酒本、内匠、小川

■意見交換

・構想の4～6章については、概ねよいと思うが、アプローチの「新・奥座敷」という部分にまちづくりのイメージをもう少し前面に出して固めていったほうがよい気がする。

・これから10年間取り組んでいくときに、何をを目指しているのかという部分をもう少し固めていてもよい。今決めることができなくても、何かきっかけがあった時に修正できるような仕組みが必要ではないか。

・4章の観光魅力アップに向けたアプローチの「（仮）新・奥座敷へ」と、目指す将来像の「（仮）癒しの定山溪リゾート」という言葉がよいかどうか非常に疑問だが、ここでの言葉が今後の定山溪の将来像をほぼ全て表していくことになると思う。

・定山溪周辺の小金湯やアクティビティは、日帰り拡大を目的とした案だと思うが、定山溪というのはあくまでも定山溪温泉が中心であり、集客力が圧倒的である。定山溪では年間120～130万人もの宿泊者数があり、これからは外国人観光客も増えてくるであろう。

・日帰り宿泊では、落とすお金と経済的波及効果が全く違ってくるので、アプローチや将来像の言葉自体を、もっと時間をかけてしっかり議論していく必要がある。

・5章ではこれまでの議論で出された意見もたくさん盛り込まれているが、全体としてみた場合、これらは細かいウェイトにしかない。

・何をコンセプトにするかが大切であり、「癒しの定山溪リゾート」という言葉は陳腐すぎるため、もう少し札幌にふさわしいようなオリジナリティ溢れる言葉を持っていかなければならない。具体的に「癒し」とはどのようなものなのか、また、「癒し」という言葉は色々なところで使われているため聞き飽きている。悪いというわけではないが、目指すものを読みとることができない。

・「新・奥座敷」というアプローチの言葉も、奥座敷という内容を表しながら違う表現にできないだろうか。

・インバウンドや団塊世代をターゲットにして滞在してもらうことを考えていく場合、「保養型」や「滞在型」を頭に入れることが今後10年～20年の観光地・温泉地の求める将来像となる。

・「癒し」という言葉は、あまりにも言葉が軽すぎるという印象を受け、定山溪で提供できる「癒

し」とは何かが見えてこない。日本の観光をリードしていくのは北海道であり札幌であるため、それを考えた場合、言葉が軽すぎる、重みが無いという印象を受けた。

・思いつく言葉を並べているだけなので、どこの策定にもあるようなものになってしまっている。そういったものを超えたものが欲しいと思うし、来年の札幌市長選で誰が市長になったとしても「これでいきたい」と言わせるような構想が必要になってくるのではないか。

・定山溪温泉とは日本の温泉の中でどういった位置付けになるのかを考えた場合、「都市型の温泉地」であることがはっきりとしている。要するに“きれい”で“おしゃれ”でなければならない。本州でいうと兵庫県神戸市の有馬温泉と同じ役割である。

・定山溪は山に囲まれている景観にありながら、札幌という190万人都市に位置しているため、美しくなければならない。田舎の温泉や一軒宿の温泉とは違い、札幌市民が「この温泉は素敵」と感じるようにならなければいけない。

・温泉街の景観はよいかもしいないが、定山源泉公園の石段が欠けていたり、二見吊橋までのベンチも座りたいとは思えないし、道道や市道は草が生い茂っている。色々な箇所が傷んでいるにも関わらずメンテナンスをしようとしておらず、二見公園からぬくもりの宿ふる川までの道路は、草が歩道全体にかかっている、非常に残念であり恥ずかしい気持ちにもなった。

・定山溪の温泉街は狭い地域にコンパクトにあるので、他の温泉地と比較してはるかに整備しやすく。それがメリットである。他の温泉街は何キロも続いていたりするが、定山溪の温泉街や人が歩くところは限られているので、観光協会や旅館組合なのか、入湯税をもらっている札幌市なのかかわからないが、おしゃれで市民が自慢できるような整備を進めていかないといけない。

・まわりの自然環境や原生林は日本でも有数であり、その中で木造の建物や一軒宿を求めたりはしないので、近代的な鉄筋の施設と周りの自然がマッチする他にはないようなものを見せていくことが、北の都の奥座敷の定山溪の役割である。洞爺、登別、ウトロ、十勝川などとは全く違う役割になっている。

・ホテル・旅館の経営者が定山溪を歩いているのか疑問である。以前、経営者たちに定山溪に住んでいるか聞いたことがある。住んでいる必要はないが、住むに等しいことはしなければならぬと思う。構想を策定するだけでは時間とお金の無駄になってしまう。まちを歩いて恥ずかしい気持ちになったと私に言われ、みなさんはどう感じたのだろうか。

・スポーツ公園までの散策路は必要だと思うが、作ったとしても、何年も経たないうちにメンテナンス不足という状況になるのならば意味がない。

・これほどメンテナンスが行き届いていない温泉街は見たことがない。今日明日の問題なので、構想に「メンテナンスを行う」といった文言を記載しなければならないと思う。

・定山溪の観光パンフレットを見ると周辺のアクティビティがたくさん載っていてよいが、これは日帰りを増やすということや新しい定山溪を打ち出すということである。

・今までも将来も定山溪温泉がメインになることは間違いないが、定山溪温泉で見るところはどこか。観音堂の洞窟も閉鎖されているし、定山源泉公園は汚くてトイレもない状態、定山溪自慢の二見公園からの散策路は草だらけで女性一人で歩くには襲われそうな感じがして数人で歩かなければという感じがする。やはりそういう意識付け自体も構想に盛り込まなくてはならないと思う。

・定山溪が他の温泉地・観光地と圧倒的に違うところは、観光のボランティアがいないことであ

る。一條さんはいるが、観光ボランティアや観光ガイドは20年ほど前から全国で当たり前に行われ、今は有償のボランティアも増えてきている。5章でも示されている人材育成という部分が今までどのように行われてきたのだろうか。

- ・定山溪の温泉街のホテルまでバスを乗り付けるということしか考えていないかもしれない。構想でも書かれているように、何とか温泉街に賑わいを取り戻そう、ホテル・旅館の宿泊者を抱え込まず外に出していこうとする必要がある。

- ・実際にホテル・旅館の経営者や従業員は外を歩いたことがあるのか疑問である。年に1~2回でも歩いてみると、とんでもないことだとわかっていくと思う。こういう温泉地を見たことがないというくらい非常にショックを受けた。早急に対策をしていただかなければならない。

- ・夏休みの子ども連れや外国人が歩いてしたが、どんな印象を持っているのかと考えると少し怖くなった。

- ・まずは、4章のアプローチや目指す将来像の言葉選びと、内容のコンセプトがどういうものなのか具体的にはっきりとさせることが必要である。

- ・そして10年先だけではなく、現状の課題に対応してもらうこと、そしてインバウンドがどんどん増えていく中で、日本のトイレは世界一きれいと言われているのに温泉街の中心にあるトイレが汚かったり、定山源泉公園の石畳が剥がれていたりという状態のままではよいのかということが課題である。

- ・ホテル・旅館はそれぞれ美しくおしゃれかもしれないが、定山溪温泉の景観も美しくおしゃれでなければならない。

- ・周りが自然で覆われていることで、鉄筋の建物でできている景観を補い、自然が奥深いので鉄筋の建物を忘れさせてくれるという大きなメリットがある。また、自然に勝るとも劣らない人間の心遣いや工学・科学の力をきちんと使ってメンテナンスをきちんとすることが必要だという気がする。

- ・千歳からのバスが南区のアパホテルに着くが、アパホテルから定山溪までのバスが出てないため市民生協まで歩かなくてはならない状況である。

- ・真駒内駅の定山溪行きのバス乗り場は吹雪や雨風をしのげる場所がない。他の観光地では必ず待合室が何箇所かあるが、定山溪の場合は一箇所もない状況である。また、電車を降りても定山溪へ行くための案内や目標物がなく、専用の休める場所もない。

- ・真駒内の再開発に関する公募に対して定山溪の人からは全く募集がなかったことにごっかりしている。誰も関心を持っていないということだろうか。

- ・これから高齢化が進み札幌近郊の方が車で定山溪に来る人が減ってくるかもしれないので、そういった方々が来やすいようにするため、定山溪までのバス停に待合室が必要である。

- ・目指す将来像の「癒しの定山溪リゾート」というフレーズを見て、森の譚のようだと感じた。つまり道東から参入した鶴雅グループが定山溪を客観的に見た際のイメージと近いものだと思う。ただ、この表現が正しいかどうかはわからない。

- ・また、5章の展開例をどのように取り組むのか、もしくはどのように精査するのか多々問題はあると思うが、これらを実施するには相当なパワーが必要になると思う。

・先日終了した JAZZ イベントは全 5 日間であったが、相当なマンパワーが必要であったので、5 章の展開例の全てを取り組むとなると、どこまでパワーをかけられるか、大変になるのではないかと思う。

・現在、観光協会も人手不足でギリギリの人数でやっているのですが、何か新しく取り組む時に、観光協会の会員が参加すべきだと思うが、それ以上に他からも人出があると助かる。

・大きなビジョンをどのように落としこんで少しずつ前に進めていくかが大切だと思っているので、どのように動かしていくのか頭のなかで考えている。

・メンテナンスに関しては、責任が全体的に曖昧になってしまっているのではないかと。観光協会なのか旅館組合なのか、どこが責任の所在かをはっきりさせながらも、負担が偏らないようにしていく必要がある。ハード的に大きく壊れた部分に関しては、もう少し早急をお願いしたいところである。

・熊本の黒川温泉の場合は 28 軒の宿泊施設があるが、宿泊客は定山溪よりもずっと少ない。黒川温泉の旅館組合は 4 名の従業員の内、1 人は環境関係の専属であり、その人がまちを歩いて異常やごみなどのチェックをしている。簡単にできることではあるが、修繕する場合の費用をどうするかなどが問題になってくる。美化に一人専属でつくということまで考えた旅館組合の運営の仕方をしている。

・5 章 p 26 の「各ホテルの駐車場を活用した日帰り客用駐車場の拡充」について、また、p 27 の「各ホテルや空き店舗等の活用による賑わいの創出」について、前回の議論の中で各ホテルの店舗を外に出すということや、ホテルの一角の店舗貸出し、各ホテルの特徴をもたせた朝市やマルシェの開催について書き出しているが、そのことに関する意見をいただきたい。

・また、トイレのことにに関して松田委員からの意見にもあったが、ホテルのトイレを気軽に利用できる工夫・発信というように、温泉街としてオープンにしていこうという議論があったが、それらについての意見をいただきたい。

・トイレの利用に関して、お越したく方は歓迎しているが、特に発信はしていない。

・各ホテルで強みと弱みがあると思うが、当館は駐車場が弱みになっている。日帰り客が駐車場を利用してしまうと、宿泊客が 1 台も車を停めることができなくなってしまう。特に 10 月は駐車場がパンクしている状況である。

・旅館組合で交渉して、各施設の強みと弱みを考えながら、可能なことを可能なところで行っていくというようにしなければ進まないと思う。

・4 章の目指す将来像は、ワンフレーズで共通のイメージができるような言葉の方がわかりやすいのではないかと思う。

・松田委員からもあったが、景観の整備ができていないところがマイナスである。

・また、JAZZ イベントを行った金川委員が一番感じていると思うが、定山溪にはマンパワーが必要であるが、今ここにいる人たちだけでは限界があると思うので、どのようにして外からの力を借りるか、または新たな事業者を定山溪に呼び込んで活気を取り戻すか、そういったことが人手

の確保にもつながる。

- ・我々がイベントに関して魅力的な場を提供して、そこでやりたい人が集まるというように、地域そのものの価値を高められるとよい。

- ・構想にはゼロからプラスに向けてどのように価値を作っていくかということが多く書かれているが、今の定山溪はマイナスの部分が多いのが現状である。そのマイナスをどのようにゼロに持っていくか、観光地として当たり前のことをどのように当たり前に行っていくかというところが大切だと思う。

- ・前々回のまち歩きの時よりも、昨日はイタドリが3倍位の長さになっているだろうし、ここ2日くらいの雨で更に伸びるのではないかと。そうすると二見吊橋の散策路だけでなく、定山溪全体の歩道がイタドリで潰されてしまっているのではないかと。

- ・おそらく各ホテル・旅館は自分の施設敷地を含め周辺の手入れを行っているとは思いますが、そうでない所をどのように管理していくのかが問題である。黒川の例のように、地域として取り組んでいく他、草を刈るのは大変な労力がかかるため、札幌市からの協力を得ながらマイナスをゼロにしていく必要がある。

- ・歩道が潰れているために車道を歩き、そして事故が起きるのではないかと。道路も実はたくさんある。マイナスをゼロにしていくことを一つの大きな軸として取り組んでいかなければならない。自分自身も重点的に取り組んでいかなければならないと思う。

- ・客観的に定山溪を見た人の意見と、内部で色々な実情を知っている人の意見とでは、色々な所で調整が必要になってくるのだと思う。

- ・理想像はここにあるが、それを実際に落としこんでいくのは大変な作業になると思う。5章の展開例としては今までの会議で出た意見が盛り込まれていると思うが、これらに優先順位を付けなければ実現は難しいと思う。現在の実情に合わせた優先順位を付ける必要があり、その次に「ここにはこういう人が必要」など人材やマンパワーに関して考えていったほうがよいのではないかと。

- ・JAZZ イベントに関して話があったが、何百人・何千人という人を動かすと、それだけで大変な労力だと思う。イベントを専門でやっている自分自身でも大変であるが、特に本業はホテルの経営をしている方がやっているのだから、適材適所の配置を考えながら未来を見ていく必要がある。

- ・4章の目指す将来像について、「癒しの定山溪リゾート」という言葉は「癒しの登別温泉」に変えても通用してしまう。定山溪リゾートとはこういうものというキャッチフレーズでなければ、みんなに見えてこないものになってしまう。都市型温泉やおしゃれでなくてはならないというヒントをもとにキャッチフレーズを考えていってはどうか。

- ・4章のアプローチはよいと思うが、目指す将来像の「癒しの定山溪温泉リゾート」というのは簡単な言葉な気がしてしまう。「北の都の定山溪」というのはよいと思う。「リゾート」は軽い感じがしてしまい、「癒し」でもないと思う。海外に伝えるのにも「北の都」というフレーズがよいのではないかと。

- ・定山溪おせっかい隊という組織をつくり、シニアなどに草刈りしてもらい、その見返りとして入浴や弁当を半額で提供するなどの仕組みをつくるとおもしろいのではないかと。堅苦しく「人材確保」というのではなく、温泉利用などをメリットに市内のシニア層に来てもらい、市民のパワ

一を活用することがよいのではないか。

・絵に描いた餅を10年間かけて取り組むのではなく、今しなければならぬことをするべきだと思う。

・各委員の意見が構想に反映されているが、これからの作業は、10年という構想期間の中で選択と集中をしていかなければならない。

・その中で観光協会や旅館組合の意見は重要になってくると思うが、どこに集中的にお金をかけるか、どうすれば定山溪の温泉街の魅力が高まるのかを考え、意見を切り捨てる段階にきていると思う。

・定山溪温泉の魅力はコンパクトな温泉街であり、定山溪中央線を中心に考え、専門家の意見を出来るだけ勘案するべきではないか。

・4章の目指す将来像の「癒しの定山溪リゾート」というフレーズは陳腐ではあるが、温泉地として必要なものは「癒し」であり、元々温泉は治癒で使われていたもので、癒しの価値が大きくなるほど温泉地としての価値が大きくなるのではないか。また、日帰り入浴や宿泊で心身が癒されたり、ビルの中で生活している人が自然に癒されることもある。そういったものが積み上がることによって、温泉地としての価値が上がるのではないか。

・一方で「リゾート」とは観光地ということなのではないか。観光というのは非日常であり、定山溪にある非日常はカヌーや乗馬、ワイナリーなどがあるが、それらが伝わりきれていないので、伝えていくことが観光地としてあるべき姿ではないか。また、定山溪の一番の宝である自然も非日常のものなので、観光の魅力の一つではないか。

・温泉地としての歴史は間もなく150年になるので、そこに関してはマイナスをゼロにもっていく作業になると思う。しかし観光地としてはまだ取組が浅い部分もあるので、できることからしっかりと取り組んでいくことが必要である。

・そのなかで10年後、20年後に山と川、自然、温泉をもって温泉地・観光地という表現ができればよい。

・景観、美観に注意して努めていきたいが、二見公園や散策路は札幌市の持ち物なので、市と調整しながら取り組んでいきたい。

・公共の駐車場と公共のトイレが必要だと思う。他の委員から気軽にホテルのトイレを利用していただけるという話もあったが、やはり用事がなければホテルには入りづらい部分があると思う。

・観光協会のトイレは、頼まれたらお貸しするようにしているが、職員用であり観光客向けにはなっていない。国道拡幅に伴い、公共のトイレや駐車場の設置を検討していただきたい。

・優先順位を事務局で考えるために、みなさんからもう少し意見をいただきたい。5章でも記載しているが、各ホテル・旅館の利用に関する事で、できることとできないことなどがあれば意見いただきたい。

・国道拡幅に伴い、スポーツ公園の場所に観光案内所が移転することが想定されるが、その駐車場やトイレを含めた拠点施設の整備に対して意見をいただきたい。

・道の駅は必ず必要な機能だと思う。国道拡幅に伴い、定山溪を通過してしまうのではないかと
いう懸念を持っている地元の方々が多いと思うが、観光案内所を併設した道の駅があることによ
って、ゲート性とインフォメーション機能の役割を果たすことになると思う。

・全国的に見ても大都市に道の駅があるところはほとんどないと思うが、定山溪に道の駅がある
かないかでは、かなり効果が違ってくると思う。

・これからの温泉観光地に必要なことは滞在である。少子高齢化を補うためにインバウンドを取
り込む必要があり、例えば、宿泊者が年間 200 万人から 120 万人になっても 1 泊していた人を 2
泊にすれば補うことができる。

・日本の平均寿命は世界一で男性も 80 代になったが、健康寿命は短く、平均で 13~14 年も寝た
きりか介護である。一生懸命元気に歩いている高齢者もいるが、その反面で寝たきりの高齢者が
多くいる。これから団塊の世代が動けなくなってくる頃、急激に旅行者が減ることが考えられる。

・4 章の目指す将来像は「癒しの定山溪リゾート」という陳腐な言葉ではなく、「心身再生の里」
など連泊型・滞在型に結びつくようなフレーズが望ましい。

・また、アプローチにある「新・奥座敷」というのは美味しいものを食べて週末に 1 泊するとい
うイメージだが、10 年先のことを考える場合、保養地型の連泊型を意識するようなコンセプトを
持ってこなければならない。

・定山溪のウリは自然だというのが、北海道はどこに行っても自然だらけである。定山溪は札幌市
街地と変わらない鉄筋の建物がある都市型の温泉であり、道内や道外、海外客にとって札幌中心
部や小樽、洞爺などへ行く拠点にもなる。

・先の話ではあるが、新幹線延伸の予定もあり、簡単に都市部に行けながら自然もある環境は全
国的に見ても珍しい。これらを見据えた将来像を作らなければならない。

・将来像の内容はよいが、フレーズが陳腐すぎる。1 泊型から滞在型へ移行するフレーズと中身
が必要である。また、本当に癒されるのか具体的に示す必要がある。どこの温泉地でも「癒し」
という言葉は使われてきており、科学的に癒されることを証明することが必要になってくるので
はないか。

・北海道の観光客の 7 割は道内客であると新聞に掲載されていた。北海道には自然があふれてい
るので道内客が自然を求めに来ることは、あまり考えられない。

・都市型の温泉地として、他の観光地とは違うということを示すキャッチコピーをどのようにつ
くるのか、美しくおしゃれであることを一つの手がかりとして作っていくとよいのではないか。

・10 年先を考えると、滞在型にならなければいけない。そして小金湯や八剣山などは日帰りで行
くところだというイメージから、定山溪に滞在しながら行くことができる場所というイメージに
していく必要がある。

・年間 100 万人が訪れる観光地はすごいことであるが、札幌市の人口も 2020 年頃をピークに減少
が進み、高齢化も進んでいく。いくら奥座敷と言ってもこれから間違いなく定山溪に来る人が減
っていくことになる。

・経営的には、滞在型であるとか外国人を呼ぶためのコンセプトづくりをやっていく必要がある。
その際、奥座敷という表現は外国人には伝わらないと思う。

・これから先 10 年を考えてイメージ作りする必要があり、「新・奥座敷」や「癒しの定山溪リゾート」ではなく、もう少し大きなコンセプトを立ち上げてみんなで共有していかなければならない。

・5 章の展開例では、この内容は、今まで足りないと思っていたものばかりであり、みんながイメージとして持っている課題を具体化したものである。今回の話し合いで優先順位は自然とわかってくるだろうし、みんな優先順位を持っている。

・いろいろなところで草が伸び放題になっている件は、経済学でいう「共有地のジレンマ」の典型的なケースであり、観光地によくあることである。景観とは、フリーライダー（ただ乗り）が多いものである。

・誰かがやらなければ解決されないが、誰かがやるのを待っている。本当に問題意識を持っているのなら誰かがやるはずである。誰かがやらないのなら自分がやるというのが本来のサービスである。それが共有地のジレンマを脱する唯一の術である。そういった問題が顕在化しているので、取り組んでいけば優先順位は必然的にでてくる。

・取り組むときのインセンティブになるのが最初のコンセプトである。海外客に目を向けることや 10 年先の発展というのはコンセプトであり、「癒し」「リゾート」などはどこの観光地でも言っているフレーズである。

・マンパワーが必要だという意見もあったが、本構想を実現していくための推進体制や役割分担を考えていく時に、エリアマネジメントを行う組織が必要かもしれない。いろいろな関係者と調整する際、観光協会の枠を超える場合も多々あるのではないかと。観光協会の状況はどうか。

・観光協会自体は会員 90 名ほどで、その中に理事が 20 名ほどいるので、一体になって進めていく方法を考えなくてはいけない。

・刈った草を捨てる場所がなく、切ったイタドリをどこかに置くと不法投棄になってしまう。そのあたりを行政にお願いしながら取り組んでいくとスムーズになると思う。

・以前、連合町内会で話し合い、定山溪まちづくりセンター移設の際に道の駅を併設する計画があったが、話がなくなってしまった。

・トイレを直したいがお金がないため、入湯税を還元してほしい。観光協会の職員用トイレを観光客に貸しているという状況であり、お金の面で助けていただいて、トイレや公園の整備など行っていきたい。玉川橋の工事は進んでおり、まち歩きには助かるかなと思う。

・札幌市の入湯税は、箱根に次いで全国で 2 番目ではないか。

・定山溪で約 2 億円、その他で約 2 億円、合わせて約 4 億円である。定山溪以外の温泉施設が増えており、定山溪のウェイトは落ちてきている。

・定山溪には子どもが遊ぶ公園がないが、入湯税の使われ方は目的に沿っているのか、定山溪の入湯税は何に使われているのか。

・定山源泉公園の整備はそれほどお金がかかるものではないので、入湯税を回してもらえるように調整するのが観光協会の役割である。普通は源泉の保護や消防・救急関係など観光地としての整備のための目的税なのだが、入湯税は定山溪に戻ってきているのか。

・また、政令指定都市にふさわしい、きれいなトイレを整備しなければ恥ずかしいと思う。直接的に嫌な思いをするのは観光客であり、最終的に札幌市に影響が及んでくることになる。

・人手不足について本当に足りていないのか、それともうまく回るようにしていないのかわからない。

・通常の世界遺産はどんどん観光客が減ってくるものであるが、熊野古道の場合は、コンスタントに観光客が来ている。最近では全国から旅行者のボランティアを募って、自費で1~2泊してもらい、昔の古道の石畳を出す作業を行ったりしている。

・定山溪のために何かしてあげたいという人が市内や他地域にもいるはずである。市内の定年退職後の方々を呼んでおせっかい隊を募った場合、20人ほどはすぐに集まると思うが、来てもらった際に迎える側がいかにか心を尽くして信頼関係を作れるかが大切になってくる。

・日本は豊かになってきているので、自らお金を払ってボランティアに来る人が増えてきている。

・本当に人材が足りていないのか検証していく必要がある。年間100万人以上の宿泊客が来る観光地で観光ガイドがないということは、ありえないことである。最近では、登別でも有料のガイドが増えてきている。

・川辺を歩きながら定山溪鉄道のことやカップ伝説などについて1時間位は話すことができるのではないかな。

・退職後の教員でガイドの組織をつくったり、学生に交通費を支給してガイドをやってもらうとよいのではないかな。そのようなボランティアが当たり前の成熟した時代に入ってきている。

・ボランティアに来た人がまた来ようと思えるようなおもてなしがあるとよいのではないかな。おもてなしのプロが揃っているのが一番得意なところだと思う。

・由布院でのJAZZフェスティバルでは毎年、大分市からボランティアが来ている。何十年も続くイベントの中で、信頼関係が構築されている。

・定山溪でも市内からのボランティアを集め、信頼関係を構築して、そういった方々が定山溪の知名度や良さを広めてくれることになるであろう。

・道の駅は必要だという意見をいただいたが、みなさんにも意見を伺いたい。

・小金湯さくらの森が来春オープン予定だが、多くのサポーターの中で地元の方は2名だけであり、それ以外は他地域の人で組織されている。約10年後にはできあがる予定であり、定山溪とも結び付けたいと思っているので構想に盛り込んでいただきたい。

・道の駅に関して、定山溪は産物が乏しく販売するものはおそらく加工品になると思うが、加工品は各ホテルが自分の所で買ってほしいと思っているので、道の駅というよりも観光の拠点となるコンパクトな施設がよいのではないかな。

・駐車場とトイレというのはコンビニのコンセプトであり、コンビニと道の駅には共通するコン

セプトがある。

- ・定山溪を観光地・温泉街として整備するとなると、それに沿った道の駅にしなければならない。通常の道の駅のようにすると失敗する可能性があるため、場所や商品、トイレなどの基本コンセプトをきちんと考える必要がある。

- ・基本的に道の駅はあったほうがよいと思う。必ずしも物を売ることだけでなく、定山溪の自然を歴史的に表現したり、ダムや八剣山の紹介、果樹園の果物の販売などが考えられる。また、かっぱんコーナーを大きく設けてはどうか。その土地の魅力を感じられるようなランドマーク的な場所になるとよいと思う。

- ・道の駅にこだわる必要はないと思う。定山溪には突出してよいものはないが全体的に程々によいというイメージであるため、よい特徴が突出するようなランドマーク的な意味での道の駅は必要だと思う。

- ・高齢者を外に出したいという気持ちがあり、札幌市内からのアクセスがよいので滞在型としてPRしていくことがよいと思う。

- ・定山溪にはなにもないと言われるが、これから10年かけて色をつけていくイメージである。
- ・食事なしの湯治プランや贅沢に過ごすプランなど、様々なターゲットに合わせたプランが増えていくとよい。また、ゲストハウスなどを利用するような外国人観光客も多くいるので、そういった方々に向けた宿泊施設があってもよいのではないかな。

- ・ファンやサポーターなどボランティアを集める前に、定山溪の住民やホテル・旅館の従業員がこのまちを愛するという気持ちを前面に出して、1年のうち春と秋の2回でもマンパワーを示していけないと、外部から人を集めることは難しいと思う。

- ・道の駅は基本的にあつたほうがよいと思うが、一般的な道の駅というよりは観光協会と一体になった道の駅的な施設がよいと思う。日帰り客がまず立ち寄り情報収集をする場所であり、駐車場やトイレがしっかりと整備されたものができるとうい。

- ・年に1回定山溪のホテル・旅館の従業員でゴミ拾いを行っているが、年に1~2回増やすことは可能であるため、散策路のイタドリを刈ったりするなど、できることから始めていきたいと思う。その上で市に予算をつけていただけるとありがたい。

- ・年に1回のごみ拾いでは、ものすごい量のごみが集まる。夏前の草刈りに取り組むことも地域の一体感を生むという意味でもよいことだと思うので、挑戦していきたい。

- ・道の駅に関しては、どちらかというと「温泉の駅」というイメージではないかな。

- ・物販にこだわらず、トイレと駐車場が完備された道の駅的な施設になるとよい。